

顔認証を利用した出席登録により スピーディで正確、公平な出席管理を実現



学校法人 総持学園
鶴見大学 歯学部 様

導入時期：2025年10月
導入地域：関東

課題

臨床実習の出席登録が手帳への押印のため、回収作業や出席管理システムへの登録に手間がかかる

解決策

顔認証クラウドサービス「KPASクラウド」を活用した出席登録を採用

“顔は他の人に貸すことができません。様々な選択肢の中で顔認証が、より容易に、そして正確に出席をとることができる方法ではないでしょうか。”

学校法人 総持学園
鶴見大学 歯学部 歯内療法学講座 教授
歯学博士 山崎 泰志 様

※所属は取材時のものです。

背景

大学、学生の双方にとって煩雑な出席登録

5年生から始まる臨床実習では、教員がひとりずつ学生の持っている手帳に出席登録の押印をする形で出席登録を実施していました。履修内容によっては複数の先生の押印で出席とされ、出席管理システムへの登録はそれら押印内容を目視で確認・データ入力する必要がありました。約80名の学生がいるため、実習前に複数名の先生で対応し、出席登録に約10分ほどの時間を要していたことから、出席登録のシステム化が検討されていました。

導入した理由

手帳に押印していた出席登録をKPASクラウドで実施

課題が多かった出席登録のデジタル化について教務事務部 歯学部教務課 チームリーダー 高橋様は振り返ります。「最初は学生証をデジタル化し、スマートフォンを活用した出席登録を行うことを考えていました。その相談をパナソニック コネクトさんにしたのですが、話をしているうちに既存のタブレット端末を活用して顔認証ができる「KPASクラウド」を知りました。実際にトライアルで運用したところ、出席登録のフローを大幅に改善できることが分かり、5年生から始まる臨床実習の出席登録から導入することにしました。5年生は臨床実習前に顔写真を撮り直す機会があるため、その画像を顔情報用のデータとして利用できることも効率が良かったです」

「良き臨床医」となるために

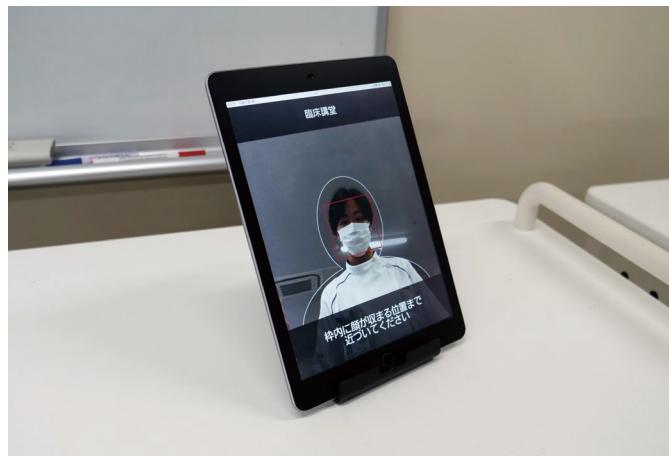
隣接する鶴見大学歯学部附属病院様との協働により、歯科医学・歯科医療についての高度な知識と優れた技術、更にはその実践力をバランスよく身につける教育を実践。これまで約6,000名の優れた歯科医師を育成、輩出されています。

- 所在地：横浜市鶴見区鶴見2-1-2
- URL: <https://www.tsurumi-u.ac.jp/>

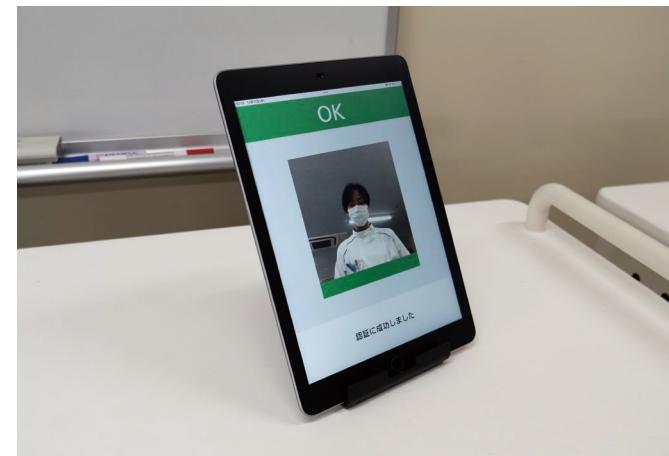


▲ 曹洞宗大本山總持寺を母体として設立された鶴見大学様

顔認証を活用した出席登録（顔認証クラウドサービス「KPASクラウド」）



▲顔の位置のガイドが表示されたKPASクラウドの顔認証画面



▲登録されている顔情報と撮影された顔をスピーディに照合

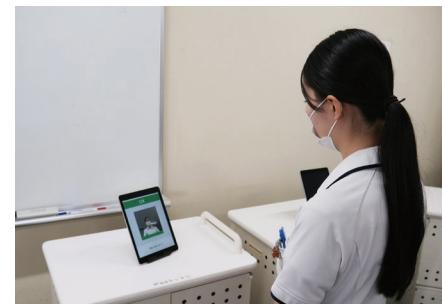
導入後の効果

精度の高い本人確認で公平な出席登録を実現

タブレット端末による顔認証を用いた出席登録について、歯学部 歯内療法学講座 教授 歯学博士 山崎様は、「例えば、認証でよく使われるQRコードは転送できてしましますし、指紋は授業で使用するシリコンで作れてしまうかもしれません。その点、顔は他の人に貸すことができないので本人であることが担保できます。写真を使っての顔認証ができない点も安心です。現状の手帳に印鑑を押す方法も含め、出席管理の様々な選択肢の中で、顔認証がより容易に、そして正確に出席をとができる方法ではないでしょうか。また現状のアナログな方法は時間の記録が残らないため、先生によって遅刻などの対応にばらつきがでてしまうこともあるかもしれません。その点顔認証はシステムで管理されるので正確で公平と感じています」と語ります。

スピーディな顔認証とデジタル記録で業務を効率化

教務事務部 歯学部教務課 グループリーダー 小嶋様は「臨床実習は病院内で行うため個人のスマートフォンの持ち込みが禁止されています。そこで先生が持参する顔認証用のタブレット端末で出席登録をする方法をとることにしました。タブレットなので、10名程度の臨床実習の場合では、1台の端末を学生にまわしてもらいながら順番に顔認証をしてもらっています。また、病院内での臨床実習であることからマスクの着用は必須なのですが、その状態でも本人であることを確認できます。認証スピードは非常に早く円滑な運用ができます。さら出席管理システムへの出席登録もcsvファイルの読み込み運用の準備を進めているため、集計作業の効率化にも期待しています」と語ります。



▲先生が持参し、教室前方に設置された顔認証端末

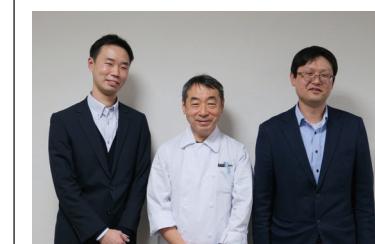


▲認証時刻が打刻されるので、学生自身で顔認証を行い、出席を登録

お客様の声

これからさらにこの顔認証を学内で活用していきたい

顔認証での出席登録であれば、先生は正確な出欠をとれるだけでなく、授業前の準備時間を大幅に削減できます。出席登録に必要な手帳を学生が忘れたり無くしたりした際の対応も不要となります。教務事務部は手間のかかる集計作業がなくなり、これまでの月に1度の手作業による集計から、日々の出席管理システムへのデータ連携により、これまでよりも早期に学生の履修状況の把握を行うことができるようになるでしょう。どの視点から見ても非常に正確で効率的であると言えます。また、本学は鶴見大学附属病院と隣接しており、卒前・卒後教育で診療参加型の臨床実習・研修を行える環境が整っています。その恵まれた環境をさらに生かしていくためにも、今後は例えば研究棟や薬品庫といったセキュリティゾーンをはじめ、その他の施設でも入退管理を顔認証で行うことも検討していきたいです。さらに、学生証をデジタル化し、顔認証と連携させることもあり得ると思います。パナソニック コネクトさんの顔認証は、マイナンバーカードの健康保険証利用をする際の読み取り端末にも搭載されており、高精度でスピーディと医療業界でも評判なため、これからさらにこの顔認証を学内で活用していきたいと考えています。



学校法人 総持学園
鶴見大学 歯学部 歯内療法学講座 教授
歯学博士 山崎 泰志 様 (写真中央)

学校法人 総持学園
鶴見大学 鶴見大学短期大学部
教務事務部 歯学部教務課
グループリーダー 小嶋 優平 様 (写真右)
チームリーダー 高橋 誠 様 (写真左)

※所属は取材時のものです。

納入機器

・顔認証クラウドサービス「KPASクラウド」

